

新約聖書 ルカによる福音書 13章 31節—35節 (新共同訳)

³¹ ちょうどそのとき、ファリサイ派の人々が何人か近寄って来て、イエスに言った。「ここを立ち去ってください。ヘロデがあなたを殺そうとしています。」
³² イエスは言われた。「行って、あの狐に、『今日も明日も、悪霊を追い出し、病気をいやし、三日目にすべてを終える』とわたしが言ったと伝えなさい。³³ だが、わたしは今日も明日も、その次の日も自分の道を進まねばならない。預言者がエルサレム以外の所で死ぬことは、ありえないからだ。³⁴ エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、自分に遣わされた人々を石で打ち殺す者よ、めん鳥が雛を羽の下に集めるように、わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか。だが、お前たちは応じようとしなかった。³⁵ 見よ、お前たちの家は見捨てられる。言うておくが、お前たちは、『主の名によって来られる方に、祝福があるように』と言う時が来るまで、決してわたしを見ることがない。」

※第1朗読と第2朗読は末尾に掲載

説教「自分の道」

フランスの修道女リジューのテレーズはこう述べています。「もう何事においても、自分にはかまわないように努め、／イエスさまがわたしの中で／行ってくださることについては、／主におまかせします」。

「何事においても、自分にはかまわないように努め」という言葉は、試練や苦しみの中で追い詰められている時にこそ、心に響き力になると思います。自分の可能性や幸せを追求している時よりも、「何事においても、自分にはかまわないように努め」自分自身を空っぽにした時、私たちは真の幸せを感じる境地に達することができるのかもしれません。

本日の福音書には、イエスがエルサレムに向かう旅の途上でのできごとが記されています。

イエスは、天に上げられる時期が近づくと、エルサレムに向かう決意を固めました(ルカ 9:51)。天に上げられるとは、イエスが十字架上で殺されて死ぬことを意味します。そしてイエスは、ガリラヤからエルサレムへ向かう旅を始めました。

するとファリサイ派の人々が何人か近寄って来て、イエスにこう言いました。「ここを立ち去ってください。ヘロデがあなたを殺そうとしています」(ルカ 13:31)。つまり旅の途中のイエスは、この時、ヘロデの支配している地域にいたということです。

イエスは、忠告をしてきた人々にこう答えました。「行って、あの狐に、『今日も明日も、悪霊を追い出し、病気をいやし、三日目にすべてを終える』とわたしが言ったと伝えなさい」(ルカ 13:32)。

イエスは、ヘロデを「あの狐」と呼びます。旧約聖書では、狐は破壊するものを表します（雅歌 2:15）。ヘロデを「狐」と呼ぶことは、権力者ヘロデが捕食的で残忍な人間であることを言い表しています。しかし、ヘロデがどんなに力づくの破壊的な力でイエスを抑えようとしても、イエスがご自身のわざを成し遂げるのを止めることはできないでしょう。

イエスは、悪霊を追い出し、あらゆる病気をいやします。これは、神の国の力を証しするために、人々の目の前で成されるわざです。

「三日目にすべてを終える」というイエスの宣言は、イエスのわざが限られた短い時間の中で完成されることを示唆しています。そして「三日目にすべてを終える」イエスのわざの集大成は、神の計画の中で成就される、イエスの十字架上の死と復活です。

さらにイエスはこう言いました。「だが、わたしは今日も明日も、その次の日も自分の道を進まねばならない。預言者がエルサレム以外の所で死ぬことは、ありえないからだ」（ルカ 13:33）。

「ねばならない」は、ギリシア語では「デイ」という言葉が使われ、ここでは「神の意志」「神の決定」を表します。神の意志を果たすために、イエスは自分の道を進まねばなりません。イエスにとって、それは自分の道であり、神の道でした。

イエスは、権力者ヘロデに殺されることから逃れるためにエルサレムに上るのではなく、そこでの十字架上の死と復活に向かって道を進み続けました。なぜなら、神の国と人々への救いは、主イエス・キリストの十字架の死と復活によってもたらされるからです。

イエスはこう続けます。「エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、自分に遣わされた人々を石で打ち殺す者よ」（ルカ 13:34）。神は、次々と預言者をこの世界に遣わしましたが、民衆は彼らをことごとく殺してしまいました。イエスは、そうした現状に私たちの目を向けさせながらこう語ります。「めん鳥が雛を羽の下に集めるように、わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか」（ルカ 13:34）。

雛は、親鳥の保護なしには生きることができません。そのことは、雛よりも親鳥の方がよく知っています。ですから一生懸命、弱い雛を守ろうとします。雛はまだそのことに無自覚ですから、ひょこひょここと出て行ってしまいましたが、そんな雛を守るために、親鳥は何度も何度も自分の羽の下に集めるのです。

旧約聖書 イザヤ書 31 章 5 節には、こういう言葉があります。「翼を広げた鳥のように／万軍の主はエルサレムの上にあって守られる。これを守り、助け、かばって救われる」。旧約聖書において、救いとは、まさにこの神の翼のかげに入れられること、その大きな守りのうちに入れられることであります。

ですが人間は、鳥の雛のように素直で無垢ではありません。神の招きに応えず、利己的な思いを貫いて生きようとしてきました。その結果、人間は滅んでいくより仕方がないものになってしまったのです。本日の福音書の「見よ、お前たちの家は見捨てられる」という言葉は、そのような人間の行く末を示しています（ルカ 13:35）。

しかし、実際に神に見捨てられたのは誰なのでしょう。マルコ福音書の十字架の場面で、イエスはこう言います。「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」（マルコ 15:34）。

主イエス・キリストは、私たち人間の代わりに「神に見捨てられる」裁きを受けつつ、自分を十字架につける人々の罪が赦されるように祈ってくださいました。主イエス・キリストの底抜けの深い愛と赦しがそこにあります。

今年も、三月に入りました。聖書には「三」という数字が繰り返し出てきます。一般的には「三日」というのは、短い期間です。しかし、救いのわざを行うのに時の長さは関係ないことを、イエスは私たちに示し、今日と明日とあさってという短い期間の中で、すべてを成し遂げたのです。

「人生は短い」と言われています。長寿の人も、そうではない人も、生きる時の長さにかかわらず、人々への救いを行い、大きな物事を成し遂げることができるのです。

私たちは、どんな時も希望をもち、主イエス・キリストと共に歩んで行きましょう。

お祈りをいたします。

天の神様。あなたが、親鳥のように私たちを包み、独り子の命を与えるほどに私たちを愛し抜かれたことに、私たちの心を開かせてください。今、悩みのうちにある人に、あなたが与えるその人自身の道を歩むための導きと力とをお与えください。救い主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

***** 説教ここまで *****

以下、本日に関連する聖書箇所（第1朗読と第2朗読）です。

旧約聖書 創世記 15章 1節—21節（新共同訳）

¹これらのことの後で、主の言葉が幻の中でアブラムに臨んだ。「恐れるな、アブラムよ。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きいであろう。」²アブラムは尋ねた。「わが神、主よ。わたしに何をくださるのですか。わたしには子供がありません。家を継ぐのはダマスコのエリエゼルです。」³アブラムは言葉をついだ。「御覧のとおり、あなたはわたしに子孫を与えてくださいませんでしたから、家の僕が跡を継ぐことになっています。」⁴

見よ、主の言葉があった。「その者があなたの跡を継ぐのではなく、あなたから生まれる者が跡を継ぐ。」⁵ 主は彼を外に連れ出して言われた。「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみるがよい。」そして言われた。「あなたの子孫はこのようになる。」⁶ アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。⁷ 主は言われた。「わたしはあなたをカルデアのウルから導き出した主である。わたしはあなたにこの土地を与え、それを継がせる。」⁸ アブラムは尋ねた。「わが神、主よ。この土地をわたしが継ぐことを、何によって知ることができましようか。」⁹ 主は言われた。「三歳の雌牛と、三歳の雌山羊と、三歳の雄羊と、山鳩と、鳩の雛とをわたしのもとに持って来なさい。」¹⁰ アブラムはそれらのものをみな持って来て、真っ二つに切り裂き、それぞれを互いに向かい合わせて置いた。ただ、鳥は切り裂かなかった。¹¹ はげ鷹がこれらの死体をねらって降りて来ると、アブラムは追い払った。¹² 日が沈みかけたころ、アブラムは深い眠りに襲われた。すると、恐ろしい大いなる暗黒が彼に臨んだ。¹³ 主はアブラムに言われた。「よく覚えておくがよい。あなたの子孫は異邦の国で寄留者となり、四百年の間奴隷として仕え、苦しめられるであろう。¹⁴ しかしわたしは、彼らが奴隷として仕えるその国民を裁く。その後、彼らは多くの財産を携えて脱出するであろう。¹⁵ あなた自身は、長寿を全うして葬られ、安らかに先祖のもとに行く。¹⁶ ここに戻って来るのは、四代目の者たちである。それまでは、アモリ人の罪が極みに達しないからである。」¹⁷ 日が沈み、暗闇に覆われたころ、突然、煙を吐く炉と燃える松明が二つに裂かれた動物の間を通り過ぎた。¹⁸ その日、主はアブラムと契約を結んで言われた。「あなたの子孫にこの土地を与える。エジプトの川から大河ユーフラテスに至るまで、¹⁹ カイン人、ケナズ人、カドモニ人、²⁰ ヘト人、ペリジ人、レファイム人、²¹ アモリ人、カナン人、ギルガシ人、エブス人の土地を与える。」

新約聖書 フィリピの信徒への手紙 3章 17節—4章 1節 (新共同訳)

¹⁷ 兄弟たち、皆一緒にわたしに倣う者となりなさい。また、あなたがたと同じように、わたしたちを模範として歩んでいる人々に目を向けなさい。¹⁸ 何度も言ってきたし、今また涙ながらに言いますが、キリストの十字架に敵対して歩んでいる者が多いのです。¹⁹ 彼らの行き着くところは滅びです。彼らは腹を神とし、恥ずべきものを誇りとし、この世のことしか考えていません。²⁰ しかし、わたしたちの本国は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、わたしたちは待っています。²¹ キリストは、万物を支配下に置くことさえできる力によって、わたしたちの卑しい体を、御自分の栄光ある体と同じ形に変えてくださるのです。^{4:1} だから、わたしが愛し、慕っている兄弟たち、わたしの喜びであり、冠である愛する人たち、このように主によってしっかりと立ちなさい。

教会讃美歌 64番「主イエスの十字架に」、71番「とうとき主イエスの」、198番「主よめぐみもて」